



4\_子供たちを交えた消火訓練 / 5\_毛布と単管パイプを使った救助訓練。どちらも大東町市ノ通自治会の運動会内で行いました

共助の精神を育む

自主防災組織は地域住民による任意の防災組織。主に自治会が母体となり、地域住民が自主的に連携して防災活動を進めています。

市の自主防災組織の組織率は90・44パーセント。大半の地域で組織化が行われています。「避難訓練」「消火訓練」「炊き出し訓練」など、様々な訓練を実施し、災害から命と財産を守るため、危険個所や避難場所を記した防災マップの作製にも取り組んでいます。

こうした取り組みは、住民



特集 災害に備える

非常は長期化すると非日常になる。日常を取り戻すカギ。共助とは何か

# 2 共助の精神で、非日常を越える

避難所の暮らしを体験

災害によって電気・ガス・水道などのライフラインが絶たれた状態や、避難所での生活は、身体だけでなく心にも大きな負担を与えます。

このような非日常を、少しでも快適に暮らすために必要なのは、ルールを作り、守ることだと言われています。避難所生活体験(サバイバルキャンプ)は、7月19、20日に一関学習交流館で開かれ、参加者は非日常に必要な知識とルールの大切さを体感しました。

市、平泉町の自主防災組織の会員、婦人協力隊、消防本部職員など60人が参加。地震で建物が倒壊し、ライフラインは寸断され、避難所に集まった設定で生活を開始しました。参加者は、3班に分かれ、代表を決定し、班ごとのルールを決めて、互いの役割を確認しました。段ボールを敷き詰めて食事場所を設営したり、食事の準備を行ったりと、役割に沿って、協力しながら非日常への心構えを体感しました。

避難の経験を忘れない

主催した市消防本部の佐藤幸紀防災安全対策監は「市や警察、消防の援助を『公助』と言います。全ての避難所に公助が行き渡るには時間がかかります。食事の順番や掃除当番などの身の回りのことは、自分たちが主体となることで避難所生活のストレスを減らせます」と話しました。

昨年発生した水害によって、東山町松川地域は大きな痛手を負いました。

非日常を体感した松川第10区行政区長の小野寺講一さんは「昨年は、26世帯中22世帯が床上浸水の被害を受けた。地域には高齢者世帯などの災害弱者も多い」と眉をひそめます。

松川地域は、17年に自主防災会を組織。学習会などの防災活動に取り組んでいます。小野寺さんは、「安心感は備えて得られる。しかし、油断すると奪われる。雨量や砂鉄川の水位はテレビでも確認できる。教訓を次に生かしたい」と意気込みます。

の防災意識を高め、世代間の距離を縮め、失われつつあった地域コミュニティも再生させていきます。一刻を争う緊急時は、誰が、どこに住んでいるかを調べる時間などありません。日ごろから隣近所で互いの家や家族のことを把握しておくことが重要です。近年は高齢化や核家族化が進み、世代間や地域の連帯感は薄れていると言われています。

まずは家庭、次に隣近所、そして地域へと、古きよき時代のつながりを取り戻すことが、土壇場の被害を最小限に食い止めます。先の震災における避難所生活を裏で支えたのは、自主防災組織や地域のコミュニティと被災者同士の共助でした。共助とは、共に支えあい、助け合うこと。災害が長期化する、過性の備えだけでは太刀打ちできません。大災害は、お互いが助け合わなければ乗り越えられないのです。日々の暮らしの中で、共助の精神を育むこと。これが自主防災組織の目的と言えるでしょう。

## 消防団と自主防災組織が連携して防災に取り組む

自主防災組織に聞く

「地域の役に立ちたい」。そう思って、消防団に入団しました。以来、24年になります。仕事の合間に行う消防団活動は、大変ですが、やりがいも感じます。団員同士が互助の精神で協力し合っています。市ノ通集落では、東日本大震災の経験から自主防災組織を結成しました。まずは市の補助を受け、発電機などの機材を揃えました。次に日常から防災意識を高めようと、定期的な訓練を計画しました。訓練というとハードルが高いので、自治会の運動会に合わせ、緊急通報と消火器操作訓練などを行いました。行事に合わせたことで子供から年配の人まで、多くの人が参加しました。訓練では、実際に私の

携帯電話から消防署に通報しました。緊張からか、災害の状況を正確に伝えるのは難しかった。これが非常時だったらと思うと訓練の必要性を痛感します。昨年7月の大雨では、集落でも過去に例のないほど河川が氾濫しました。農地や道路の決壊など、大きな被害を受けました。床上浸水の被害を減らすため、自主防災組織の皆さんが、川から流れ込んだゴミを除去しました。とっさの応急措置でしたが、被害の拡大を防ぐことができました。これからも消防団と自主防災組織が力を合わせて、防災に取り組んでいきたいと思っています。



大東第2分団第4部副部長 及川勝則さん




1\_段ボールを使って、食事用のテーブルや寝床を作りました / 2\_班で決めたルールを書き出して、お互いに確認しよう。ルールは作るだけでなく、守るための工夫も必要です / 3\_東山を流れる砂鉄川と松川十二木橋付近。普段は穏やかな流れだが、大雨によって表情を一変させます



**小野寺 講一さん** 松川第10区 行政区長  
日頃の情報収集と避難時の準備を啓発

砂鉄川の河川堤防が平成18年に完成したことで、水害はないと安心していた。しかし、昨年7月の集中豪雨で甚大な被害を受けた。自然を相手に、100%の安全はないことを改めて痛感した。



**松澤 啓一さん** 真滝8区自主防災会  
もしも、に備える避難所生活を体験

自分たちでルールを決めることが大事だと感じた。実際の避難所では、もっと複雑な意見や要望が出ると思う。この訓練での経験は、地元の自主防災組織で伝えていきたい。

